

学術研修委員会委員長 精神科部長 玉元 徹

平成27年11月16日17時30分に高知赤十字病院 救命救急センターの尾谷智加看護師による災害研修の講演がありました。昨年に続いて、東日本大震災直後の生々しい赤十字病院のチームの活動について報告していただきました。何回聞いても、身の引き締まる思いで、聞き入るしかありませんでした。避難具の確認や災害難民の病院への流入に対する対応、トリアージの重要性など、臨機応変に対応しなければならないことが多いが、こういう研修を毎年続けることが、災害対策には重要だと思います。何回もすり込むことで、心に余裕ができ、やるべき事は何か、予期せぬ出来事に対して臨機応変にするべき行動は何か、応用も利くと考えられます。是非毎年災害研修を続けて欲しいと思います。尾谷講師の語り口調は穏やかで、流暢で、心地よく耳に入ってきました。ありがとうございました。



**防災管理研修会
「高知県下で広域自然災害発生」
H27.11.16(月)**
高知赤十字病院
救急看護認定看護師
尾谷 智加 氏



**行動制限最小化看護研修会
～改めて行動制限の基本を学ぶ～
H27.12.7(月)**
高知県立あき総合病院
(社)日本精神科看護協会
精神科認定看護師 奥村 清 氏

平成27年12月7日17時30分には、ほぼ毎年恒例となっている高知県立あき総合病院の奥村清看護師による行動制限最小化研修が行われました。行動制限のうち、隔離や身体拘束が零続いて久しくなった時期に奥村講師の講演を聴けたことは感慨深い物がありました。奥村講師の講演が少なからず、当院の精神科看護に影響を与えてくれたことを私は確信しています。新しい情報も多く盛り込んでいただき、常に工夫して下さっていることにもとても感謝しております。奥村講師の語り口調もとてもしっかりと滑舌よく、男性にしては珍しいほどいつも心地よく聴衆を引きつけてくれています。毎年ありがとうございます。



第2回 徳島ロボットリハビリテーション研究会

徳島大学病院 日垂メディカルホール H27.10.31(土)
「ALSと痙性対麻痺の2例に対するロボットスーツHAL®を経験して」

リハビリテーション部 理学療法士 上村 拓人

今回、第2回徳島ロボットリハビリテーション研究会に参加、発表させていただきました竹村改め、上村拓人です。この徳島リハビリテーション研究会は、Dr.やNs、PT、OT、STなど様々な職種の方々が発表を聴きにいられており、とても緊張感があるものでした。

発表演題は6題あり、発表者の皆さんはかなり饒舌にスラスラと話されていました。私は5番目の発表でしたが、順番を待っている間にかかなり上がってしまい、いざ発表となると声も震え足もガクガク。。。。。「もっと練習をしておけば良かった」と発表しながら思っていました。発表後は他病院のスタッフから質問がありましたが、ここでも緊張しているせいで上手く答えることができずとても悔しい想いをしました。

今度また発表の機会がありますので、次は色々失敗しないように練習を重ね、どんな質問が飛んできてもしっかり準備したいと思います！！

神経難病 医療従事者研修

H27.10.5 (月)
～6 (火) 6名
H27.11.9 (月)
～10 (火) 6名

2病棟看護師 田中 真沙代

平成27年度神経難病医療従事者研修の担当となり、研修生に指導及び説明する事の難しさを改めて感じました。研修前には自分自身が難病疾患についてや、病状の進行具合、それに伴う患者の受け入れ方等について、再認識する機会になりました。研修に参加された方の多くは訪問看護の方でした。なかには難病の患者さんとの関わりを持たれている方もおり、日々の関わり方や難病患者さんの特性について共感できる事もあり、病院スタッフだけの悩みではない事を知ることもできました。研修にあたり、中澤院長、吉村副

院長の講義や、多職種の協力により患者さんへの関わり方をしっかり見学して頂けたと思います。研修中は活発に質問をしてくれる方も多く、呼吸器の取り扱いについては実際に回路交換をしたり、時間を過ぎてまで呼吸器導入患者さんへの関わり方について話をさせて頂きました。2日間の研修という事で非常にタイトなスケジュールになってしまい、事前アンケートの希望に添えなかった事も多くあったと思います。今回の経験を次回への研修へとつなげていきたいと思えます。

高知県立大学 看護学部看護学科 の実習生を 受け入れに ついて

訪問看護ステーションおおそね管理者 看護師 近森 真由美

今回、高知県立大学看護学部看護学科4回生8名(2名×4クール)、平成27年10月5日～11月27日の受け入れをしました。長期間の実習生の受け入れは初めてで、自分達が十分な事ができるのかとても不安でしたが、受け入れる事で自分達のスキルアップにもつながり良い機会となると思い受け入れを決めました。実習生は紙カルテに驚いたり、医療依存度の高い訪問看護ステーションを想像されていたようで少しギャップを感じた様でした。実習最終日の反省会では、当ステーションは精神疾患を抱えた

利用者さんが主であり、利用者さんとじっくり向き合い傾聴していくこと、生活に寄り添った支援、多職種との連携・協働、制度や法律の活用等を学習できた、ここで働きたいと言ってくれた実習生もありました。実習生が学内で勉強している理論、在宅での何故?等を一緒に考え気づかされ、私たちにとっても本当に良い刺激となりました。初めての実習生受け入れで十分な事ができませんでしたが、今回のことを今後に生かせるようがんばりたいと思えます。